

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

World Vision

この子を救う。未来を救う。

フィリピン台風緊急支援募金による活動報告書

■募金件数:2,510件 ■募金金額:36,764,541円

■募金期間:2013年11月11日~2014年4月24日

皆さま一人ひとりの募金で、大きな支援を届けることができました



台風襲来の2週間後に設置されたチャイルド・フレンドリー・スペースで過ごす、セブ島北部タボゴンの子どもたち。被災した子どもたちは友だちと遊び学ぶ中で、落ち着きを取り戻していきました。台風で大きな損傷を受けた小学校の敷地にテントを張って開始しました

2013年11月8日、フィリピン中部に巨大な台風30号(ハイエン)が上陸し、甚大な被害をもたらしました。被災者の数は1,410万人に達し、410万人が避難生活を強いられ、110万の家屋が損害を受けました(約半数が全壊)。6,201人が亡くなり、1,785人が行方不明のままです。(出典:国連人道問題調整事務所)

ワールド・ビジョン・ジャパンは、フィリピンで台風により被災し、愛する家族や知人を失った人々、家や故郷そして仕事を失った人々、とくに最も影響を受けやすい子どもや女性たちのために、多くの皆さまから募金をいただき、世界のワールド・ビジョン(以下、WV)事務所とともに、支援を届けることができました。ここに感謝とともに、報告をさせていただきます。

<http://www.worldvision.jp>

食料支援

対象：82,133世帯

台風により、食料を手に入れるための店も、流通システムも、穀物の農場も破壊されました。WVは、被災者に食料や調理用油などの緊急食料セットを配布し、また、国連世界食糧計画（WFP）と協力して、各世帯に家族1人につき5キロの米の配布を行いました。

※緊急食料セット：米、魚の缶詰、ビスケット、緑豆、ビタミンA強化の調理用油、蒸留水、塩、砂糖のセット、1、2週間分



水の容器を受け取った子ども



WVから緊急食料セットなどを受け取った被災者の一家

水支援

対象：53,755世帯

台風による大量の雨と、海岸から1キロメートル内陸にまでおよんだ高潮により、水を供給していた水源が汚染されました。WVは、人々が安全な水をいつでも入手でき、汚染された水の利用による感染症の蔓延を予防するために、2つの水タンクと浄水剤を支援しました。



キッチンセットの配布風景

調理・食事に必要な道具の支援

対象：約7,000世帯

被災した人々は避難するときに、生活に必要な道具類を持ち出すことはできませんでした。WVは、調理や食事に必要な道具をまとめたキッチンセットを、1世帯に1セット支援しました。

※セット内容：鍋2つ、フライパン、ステンレスのボウル、5人分の食卓セット（ナイフ、フォーク、スプーン）、包丁、タワシなど

生活に関わる支援

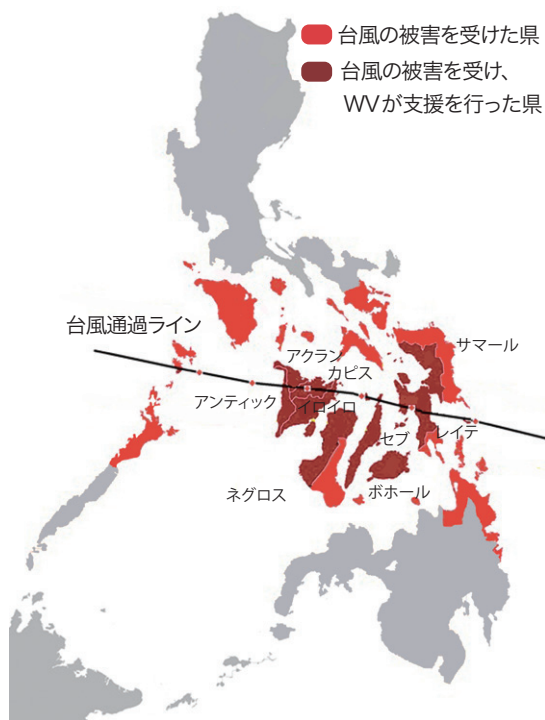
対象：55,454世帯

毛布、蚊帳、ビニールマット、缶きりなどの生活用具のセットを支援しました。

WVは配布に先立ち、その地域の人々が何を最も必要としているのかを調査し、妊婦や高齢者など特に立場の弱い人々を優先した配布対象者のリストを作りました。現地の役所の人々と配布日時や場所を調整し、配布しました。



生活用品を配布するWVスタッフ



住居に関わる支援

対象：17,796世帯

台風はその驚異的な破壊力により、社会施設だけでなく、人々の住居を破壊しました。損害を受けた家屋は110万戸におよび、その半数が全壊でした。WVは、防水シートやロープを配布し一時的に風雨をしのげるように支援しました。

衛生に関わる支援

対象：約50,000世帯

想像を絶する量の雨と高潮は、人々の家を破壊しただけでなく、各地に よんだ大量の水を残しました。汚れた水により、人々の間に感染症の蔓延が危惧されました。WVは、人々の衛生環境が守られるように、衛生用品のセットの支援を行いました。

※セット内容：入浴・手洗い用石鹸10個、洗濯石鹸4つ、歯ブラシ6つ、歯磨き2つ、生理用ナプキン2パック、下着5人分、爪切り、タオルなど

「支援物資で、困難な時期を乗り越えます」

ジェニファーさん(中央の女性、30歳)一家が暮らす、レイテ島タクロバン市の海岸にあるオールド・カワヤンの漁村も、台風により甚大な被害を受けました。107世帯の人々は多くを失いましたが、WVの支援が始まり、希望の光が差ししました。

ジェニファーさんはWVから、壊れた家を一時的に修繕する防水シートやロープとともに、食料、水、衛生用品のセット、調理・食事に必要な道具のセット、蚊帳、毛布、敷布団などの支援を受けました。

「防水シートをもらうことができ、とても幸せです。これまで屋根にしていた鉛の板が風で飛んでいったので、このシートが当分のあいだ屋根代わりになります」とジェニファーさん。しかしシートは家全体の屋根にするほど大量ではないので、シートをかぶせた一部屋のみを台所、寝室、あらゆることに使っています。ジェニファーさんは、夫のレオネルさん(写真右、29歳)の仕事が見つかるまでは、支援で受けたもので何とか乗り切りたいと言います。

「夫はタクロバンのトリシクル(人を乗せて走るサイドカー付バイク)の運転手でしたが、トリシクルも流されてしまい仕事ができなくなりました」とジェニファーさん。「私は家族のためにどんな仕事でもします。困難は多いですが、家族のために精一杯働きます」とレオネルさんは言います。WVの支援で、人々がなくしたものをすべてカバーすることはできません。しかし、支援が人々にとって、困難な時期を脱するための後押しになっていることが、私たちWVの喜びです。



防水シートや衛生用品のセットなどの支援を受けたジェニファーさん一家

■チャイルド・フレンドリー・スペースによる子どもたちの心の保護に関わる支援

対象：21,813人の子どもたち

災害などで被災し、愛する家族や友人、また家や学校を失い、心に傷を負った子どもたちが、遊びや他の子どもたちとの交わり、専門家のカウンセリングを通じて心理的ストレスを緩和する場所です。フィリピン台風被災者支援では、59のチャイルド・フレンドリー・スペース（以下、CFS）を設置し、子どもたちの精神的サポートを行いました。



セブ島北部のタバゴンに作られた最初のCFSと子どもたち

支援が子どもたちの重荷を軽くし、子どもたちを学校に戻しました

台風被害のあと、WVは11月20日、セブ島北部のタバゴンに最初のCFSを設置しました。少なくとも400人の子どもたちがこのCFSの会場となったテントで遊びや勉強、その他の活動に参加しました。このCFSは、台風により激しく損壊した小学校の敷地に建てられたものです。

校舎が破壊されたので、WVは学校で使う教育資材を使って、学校で行っていた活動を取り入れ、子どもたちを再び学校に目を向けさせるようにしました。それが功を奏し、子どもたちは、CFSで勉強するようになりました。

また、台風直後は、家族の食べ物を手に入れるために、子どもたちが通りで食べ物やお金を乞う姿が見られましたが、支援開始後は、そのような子どももいなくなりました。子どもたちは食料支援により、勉強に戻ることができたのです。

■お母さんと乳幼児のための支援

対象：妊婦と乳幼児を持つお母さん1,740人、乳幼児（5歳未満）2,273人

台風は、さまざまな社会サービス施設を破壊しました。とくに保護の必要な妊婦、乳幼児を持つお母さんや5歳未満の子どもたちなどにとって、保健衛生に関わるサービスの消失は死活問題となりました。この危機を回避するために、WVは、「女性と乳幼児のためのスペース（WAYCS：Women and Young Child Spaces）」を14カ所に設置しました。

WAYCSで、乳児を持つお母さんは安全に授乳でき、母乳育児や乳幼児の食事、健康や栄養についての専門家のアドバイスや精神的なサポートを受けることができます。また、健康や衛生についての話し合いに参加でき、性差別による暴力を回避するための研修を受けることができます。また乳幼児は診察を受けることができ、とくに問題のある子どもたちは設備の整った保健センターで治療を受けることができました。



レイテ島のオーモックに設立された女性と乳幼児のためのスペース（WAYCS）に集まった、女性と乳幼児たち

支援を受けた子どもたちと、WVJ片山事務局長

●募金についての問い合わせ先 特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン
〒164-0012 東京都中野区本町1-32-2 ハーモニータワー3F
TEL:03-5334-5351 FAX:03-5334-5359 Email:dservice@worldvision.or.jp

ワールド・ビジョンは、キリスト教精神に基づいて開発援助、緊急人道支援、アドボカシー（政府や市民への働きかけ）を行う国際NGOです